

投資事業評価調書（新規）

部課室名	農林水産部 農林水産局農村環境課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 常友 永市 (課長補佐兼地域整備 係長 鈴木敏亮)	内線	3931 (3946)
------	---------------------	---------------------	------------------------------------	----	----------------

事業種目	中山間総合整備	事業名	事業区間	総事業費	約3億円	
		中山間地域総合整備事業	山田地区	内用地補償費	-	
所在地				事業採択 予定年度	着工予定 年度	完成予定 年度
津名郡一宮町山田				H17	H17	H21
事業目的			事業内容			
中山間地域の持つ食料の供給機能や保養休養など多面的機能を保全し、定住を促進するため、農業生産基盤・生活環境の整備を早急に進めるとともに、地域の活性化への取り組みを支援する。 津名郡一宮町：過疎法による指定 事業主体：一宮町（津）			1. 農業生産基盤 （農道舗装L=2.9km） （国55%、県12%、町・地元33%） 2. 生活環境施設 （山田営農センター160m ² 、生態系保全水路L=0.7km） （国55%、県2%、町・地元43%）			
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	当地区は、町南部の山間部に位置し、たまねぎ畑、きく畑が広がる農業を主体とした地区であったが、過疎化・高齢化の進行等による地域の活力低下が懸念されている。 このため、ほ場整備と一体的に農道舗装、地域の組織強化と交流の場として山田営農センター、生態系に配慮した水路の整備を行い、農業と農村の活力ある地域づくりを推進する。また、水路は、環境教育に熱心な山田小学校の学習の場として期待が大きい。					
(2)有効性・効率性	事業実施により、主に下記の効果が期待できる。 農道舗装により、運搬による玉ねぎなどの荷痛みを解消できる。 山田営農センター設置により、コスモス祭りなどによる都市農村交流、地域農産物研究を行う。 生態系保全水路を整備することにより、地域住民の憩いの場、小学生の自然体験学習の場の創出を行う。 費用便益比 B / C = 1 . 2 3					
(3)環境適合性	水路整備については、地域にふさわしい水路景観及び生き物が生息しやすい空間の創造をめざして生態系保全型の整備を行う。 山田営農センターの建築にあたっては、県産木材を利用し、森林資源の有効活用を図る。					
(4)優先性	経営体育成基盤整備事業山田地区（H16～H21）のほ場整備及び経営構造対策事業山田地区（H17）の育苗施設と一体的な整備を図ることにより、地域農業の機動力が向上する。 県道鮎原一宮・明神安乎線県道バイパス計画（H16～H18）と連携を図り、快適な生活環境を創出する。					